

当社は、2026年1月30日に東海・東海第二発電所を対象とした総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練は、茨城県東海村で震度6弱の地震が発生し、東海第二発電所の原子炉が自動停止。その後の余震等により電源や原子炉を冷却するための給水機能が喪失、全面緊急事態(GE)に至る事象を想定し、297人が参加して行いました。

訓練では、発電所に災害対策本部を設置し、本店の災害対策本部、発電所の後方支援や自治体との調整を担う現地支援本部と連携しながら、事態の収束に向けた対応を行いました。また、同時に隣接事業所で原子力災害が発生したと想定し、実際に連携する訓練を実施しました。

さらに、群馬県の赤城山の噴火に伴う火山灰降灰のリスクを考慮し、原子炉の冷却に必要な電源を確保するため、低圧電源車の起動訓練もあわせて行いました。

総合防災訓練では、想定外の事態も含めた対応力の向上を重視しています。そのためには、設備対策に加えて技術力の強化が欠かせません。当社は、自然災害が時に想像を超える事態を引き起こすことを念頭に置き、設備の備えと技術伝承を着実に進め、重大事故を起こさないための安全確保に全力で取り組んでいます。



発電所災害対策本部での  
対応の様子



低圧電源車から原子炉建屋接続口へ  
ケーブルを運ぶ対応者



低圧電源車を起動する対応者